

令和5年度第2回「OPEN！みんなで話そう！やまさき市長とともに」概要

日 時	令和5年10月29日（日）10：00～11：30
場 所	第2庁舎 会議室A・B
テーマ	「子どもの権利を守るとは～子どもの権利サポート委員会を交えて～」
出席者	市民13名 山崎市長、子どもの権利サポート委員2名、子ども未来部職員4名、教育委員会職員2名、市民交流部職員5名

1 開会

- (1) 市長挨拶
- (2) 本日の流れについての説明 3

2 市民と市長との意見交換

- (1) 子ども未来部によるテーマの説明（20分程度）
- (2) 意見交換

- ア 【司会】まずは子どもの皆さんから「子どもの権利」について生のお声やご意見を聞きたい。早速であるが、子どもの皆さん、どなたからでも結構ですので意見を頂戴したい。
- イ 【市民】A 中学校の校則について言いたい。（生徒会）執行部交流会で他校の校則について知った。（A 中学校では）他校に比べて靴や鞄の色が自由で、校則についての取組が進んでいる。数年前、靴下の色は白のみだったが、白・黒・紺・灰と色が増えた。昨年度は、ベスト、セーターのみ着用可だったが、今年度からカーディガンの着用が認められた。色は黒・紺・灰、ワンポイントも可。登下校時は学校指定のブレザーを着ないといけなかったが、そういう風に追加された。髪型も、昨年度は肩につく長さだと結ばないといけなかったが、自由な髪型で良いことになった。来年度から上靴も自由を選べるということで、たくさん変更が行われた。
- ウ 【市長】自由に色々と変化をしてきていると思うが、校則の変更に関しては皆さんが「こうしてほしい」という声をあげて変わっているのか。
- エ 【市民】生徒総会でみんなの意見を聞いて生徒会と先生で話し合い、生徒会新聞で報告していった。
- オ 【市長】かなり喜ばれたのではないか。
- カ 【市民】髪型やカーディガンはかなり喜ばれた。
- キ 【市長】私も中学生の時に、髪の色は肩までと決まっていた。髪型等は自分自身をプロデュースする自己表現のひとつ。それを制限されると辛いし、中学生の頃は、そこで自分を表現していくことを覚えていくとき。良い方向に校則が変わっていて、生徒の皆

さんの意思で行われているというのは先進的だと思って聞いていた。これに対して大人の方々はいかがか。子どもたちがこんなにはっきりと頑張っていることを表明してくれたが、ご意見ある方はいらっしゃるか。

ク 【市民】私はかなり自由な校風の高校にいた。制服も購入しても、しなくても良かった。自分の子どもをA中学校に行かせたときに、厳しいと思った。皆さんが自分に権利があると思って意見を言ったことが叶い、後輩たちもありがとうと思ってくれるだろうと思ひ、勇気もらった。

ケ 【市長】子どもたちにエールを送っていただき、嬉しく思う。子どもたちは、学校の中で友達が固定されているとそれぞれの役割が固定してしまい、なかなか思うことが表現できなくなっていくと思っている。小学校6年生の子どもに対して、平田オリザさんの演劇的手法を用いた授業を実施している。これは、子どもたちが自由に自分の思いを自己表現して良いということをもう一回思い出してもらうためである。演劇は「転校生が来る」というシナリオで実施するのだが、3回演技してもらう。1回目は決まっていることを演技してもらう、2回目はセリフの一部を消して、そこをみんなで考えてもらう。3回目は、セリフをほぼみんなで考えてもらう。その時に子どもたちが日頃表現したいことをシナリオに盛り込んでくる。一つのグループが、じゃんけんをするというシーンをシナリオに入れた。じゃんけんを何回してもずっとあいこが続く。最後に「俺らどんだけ仲良いねん！」というセリフを入れた。これを見た時に、この子たちはずっとこの仲間で仲良くしたいという思いをシナリオの中に入れて表現したのだと感じた。仲良くしたいという気持ちを表現することは難しい。シナリオに入れてしゃべることによって、みんなの気持ちが一つになる。それを演技の中で再認識できる。その子どもたちを見た時に、この授業をして良かったと思った。それを経験した子どもたちが中学生になったときに、ストレートに自分の意見を言えるよう、そういう土台を小学生の時に作ってあげたいと思ひ実施している。宝塚市は、自分の権利を知るためにできるだけのことをしたいと思っている。そのため今日たくさん意見をいただきたいと思っている。

コ 【市民】小学生の時は好きな服を着て、中学生になったら制服になると思うが、私はあまり制服や校則に違和感がなかった。それ以外のところで楽しさを表現したり、自分のことを表現したりする場が、友達や部活、家族の中にあつた。特に校則については、疑問に思わずに楽しく暮らしてきた。子どもの権利を守るために校則を変えようという取り組みは素晴らしいと思うが、改革というところに意識が向いてしまい、何も違和感がないのにいきなり学校総出で国や市が言ったから意見しないといけない、という同調圧力がかかってしまったときに、何も思わないという権利も守ってほしいと思う。その方たちも含めて良い改革が進められたら、と思う。

サ 【市長】私は中学生の時、制服がなくて標準服が与えられていた。高校に入ると制服があり、スカートを長くしてはいけないなどの制約があつた。私も何も疑問を持たず、楽

だと思った。けれども、みんな一緒だとも感じた。髪型等で個性を出していくしかない3年間だったと今振り返ると思う。自分がどのように個性を表して良いか、どのような理由で校則に制限されているか、自分たちの権利にとってどのくらいの制限かということを考えてもいなかった。何も疑問に思っていない子に無理やり意見を言って、というのは駄目。思うことがある子に自由に発言させてあげる、それを伸ばしていきたいと思っている。校則を変えるから子どもたちに意見を言って、は駄目。いかに子どもたちにその権利を伝えて、自分たちで考えて、自分たちで意見を言えるベースを作るか。大人たちもなぜそれを制限しているのか、逆に守らないといけない権利をどう守っていくのかをしっかりと考えていきたいと思っている。

- シ 【市民】日本国憲法第21条で「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する・・・」とある。大人になってから気づいたが、表現の自由は「集会、結社及び言論、出版」とわざわざ別に「その他一切の表現の自由」と書いてある。服装は表現の自由ではないのか。なぜ制服を定める必要があるのか。僕は中学校を卒業する前、生徒指導の先生から第一希望を聞かれたときに県立B高校と答えた。第二志望はと聞かれたときにも県立B高校と答えた。決意は強かった。当時の県立B高校には校則がなく、その代わり生徒憲章というものがあった。1970年前後の学生運動が華やかしい頃に、県立B高校の生徒会が中心になって、学校から押し付けられていた校則を廃止させた。古い伝統ある校歌とは別に生徒会愛唱歌というものがあった。それは当時のC高、D高にはなかったスタンスで、とても自由な校風の県立B高校に進学したのだが、今の県立B高校には制服もある。市長は、憲法が保障している表現の自由に、小中高校生の服装が含まれていると思うか、思わないか。
- ス 【市長】子どもの制服・髪型すべて自己表現のひとつだと思う。過去のどこからか制服になっているということだと思う。択一みたいな話ではなく、私たちは制服を含めて子どもたちの権利をどのように守っていくか、その話をしたいと思っている。表現の自由も固い言い方をすれば、公共の福祉によって制限をされることがあり得る。制服を定めるということが公共の福祉かということ、そうではない。制服を絶対に定めないとはいけないというものではない。今から変化していくにあたって、どのように変えていくか。子どもの意見も聞きながら変えていこうとしている。廃止するのは簡単だが、制服を着たいという子どもたちの思いも受け止めながら、一番良い方法を考えていく。
- セ 【市民】制服ができた歴史がある。明治維新から貧富の差が大きく、学校で決めたものを着ることで、相手のことを誹謗中傷することをなくすために、制服ができた。それが徐々に進化していき、もちろん貧富の差は今でもあるが、それを自由表現というように緩和していくことが今の風潮。自由が良いのはわかるが、公序良俗が乱れた世の中になってはいけない。その辺りのバランス感覚が難しいと思う。
- ソ 【市長】制服が定められた歴史から教えていただき、初めてこの話を耳にされた方もいらっしゃると思う。服装がいじめの原因になることもあると思う。差別やいじめに結び

付けない心を、生徒たちの中に芽生えさせないといけないと思うし、大人たちも言わないようにしていくことで、制服が無くてもかつてのような問題が起こらない学校にしていきたいと思っているところである。

- タ 【市民】校則、制服について色々な意見を聞き勉強になった。校則のことはこれくらいにして、遊びの権利について私が2~3分話すことを許してほしい。私は82歳。小学校2年生の時に疎開先から堺市に帰り、焼け野原だったが、遊ぶところは自由で、道路で野球ができた。友達もたくさんいたし、遊ぶ場所・仲間・時間があった。塾はなかった。時間・空間・仲間、という3間（サンマ）が我々の時にはあった。今の皆さんにそのような自由があるのだろうか。例えば、遊ぶ場所は僕らの頃みたいに道路で遊べない。仲間は塾に行っていない。そういったことを解決しようとしているのが、E小学校の放課後遊ぼう会である。毎日実施しているのはE小学校だけのようだ。なぜE小学校しか毎日できないのか。理事長はNPO法人を作って助成金をもらって頑張っている。我々も寄付をして応援しているが、赤字である。これを続けていくために、山崎市長、ぜひ助成金のことをよろしく願います、ということが私のお願いのひとつ。返事は結構である。
- チ 【市長】子どもの権利として自由に遊ぶ時間という話があったが、昨日金沢21世紀美術館の初代館長にお会いしてきた。その方がおっしゃっていたことの中に、今こどもたちが学校に行き辛いと感じる原因は何かという話があり、金沢では子どもたちを美術のツアーというような感じで、市内の美術関係のところに連れて回るということをやっている。文化芸術で子どもたちの心を豊かにしていこうという活動をされている。私も宝塚市でどのように取り入れていくことができるのかと思い、話を聞いた。今の子どもには時間がない。色々なことで管理されて自由な時間がない。自由な時間がないと考えることができない。考えることができないと、新しい遊びも生み出せない。ガチガチに管理されている今の子どもたちに時間を与えない限り、学校に行き辛いという問題は解決しない、という話をしてきた。子どもたちには遊ぶ権利があり、自由である権利もあり、表現の自由もあり、人として権利がある。それを守っていかないといけないと思う。これについて子どもの権利サポート委員の先生、どう思うか。
- ツ 【子どもの権利サポート委員】遊ぶ権利は実際に子どもの権利条約に規定されている。余暇を過ごす権利、レクリエーションをする権利というのが実際に書いてあるので、子どもたちはそれを権利だと思って遊んで良いと思うし、親や大人たちに対して遊ぶ時間をくれ、とはっきり言って良い。これは意見表明権だが、そういった権利をしっかりと行使してほしいと改めて思った。子どもたちの意見を聞いてみたい。
- テ 【市民】中学校1年生の時からフレミラで中高生スタッフをしている。今は受験生ということもあって、遊ぶ時間がない。どこかに出かけたり遊んだりする時間が中学生になってからない。自分は、塾とかで縛られている人間。校則の話も、自分の学校の校則はおかしいと思っている。A中学校がうらやましい。F中学校では、11月に校則が3つ、4

つ変わり、今履いている靴（ワンポイントが入った靴）も以前は駄目だった。髪型はお団子と三つ編み、男子はツーブロックが可になったが、それでも厳しい学校で、今年も生徒総会を実施したがほとんど何も変わらなかった。自分も今は髪を降ろしているが、これも学校では駄目。なぜ学校によってこんなに違うのか。先ほど憲法の話が出たが、憲法的に問題になるのでは、と思う。そのあたりどうなのか。

- ト 【市長】私も市長に就任して数か月の時に、市役所の食堂に弁当を買いに行った際、知らない方に髪型のことを言われた。髪型で仕事をするのではないし、勉強をするのではない。学校ごとに校則を自由に決めて良いことになっている。靴が真っ白から少し色が入っても良いとか、髪型が緩くなったくらいでは子ども本人の意思とは違う。どのように私たちが吸い上げて、それを変えていくか。髪型についても、全くもって理由がないのであれば変えて良いということ、大人が考えるための情報提供としてやっていかないといけない。
- ナ 【子どもの権利サポート委員】先ほど憲法違反ではないかと言ってくれたが、本当に良い意見。それを学校の先生に言って良い。意見表明権で自分の思うことを言う権利があるのだから、大人たちはそれを聞く義務がある。先ほど憲法違反という話が出ていたが、そういった話を学校でできれば良いと思う。他の中学校ではどんな校則を変えていったのかを調べたり、他の学校を訪問して、どのように変わったかを調べたりということ、学校の先生に言ってみる。学校の先生に伝えて変えていきましょう。
- ニ 【子どもの権利サポート委員】子どもの権利サポート委員会は、子どもたちも困ったことがあったら相談する場所だという認識だと思うがそうではない。子どもたちが応援してほしいところをサポートするのも子どもの権利サポート委員会の役割。校則についてもっと私たちの意見を聞いてほしいといった相談をしていただければ一緒に学校へ話に行くので、ぜひ活用してほしい。
- ヌ 【市長】子どもの権利サポート委員会は、子ども応援団である。何か自分たちがやりたいと思った時には応援団に声をかける。そういう感覚で子どもの権利サポート委員会にご連絡をいただくと嬉しい。今は困りごと、悩みの相談室のようにになっているが、それだけではない。大人も子どもたちが何か頑張ろうとしている時に「応援団がいるから相談してみる？」というようにお話いただければと思う。
- ネ 【市民】宝塚市に引っ越してきて2年になる。引っ越してすぐにシルバー人材センターに登録し、働いている。今皆さんの意見を聞いて、宝塚市は開かれた市政をされていると思った。子どもの権利を守るとは、私は命だと思う。健全なお子さんでも障害を持つお子さんもすべてのお子さんに生きる権利があるのだということがまず前提であってほしい。教育とは、共に育ち合う関係の中で、お互いに人間力を育てるという側面があると思う。先日、孫の保育園の運動会に参加した。その園には障害のあるお子さんが在園されており、皆で一緒にできることがあればそのチャンスを逃さず、そのお子さんも参加させる。その場面をアナウンスで先生が優しく励まされ、やがて場内から自然と拍手

が沸き起こった。子どもたちも自然体のまじわりの中、見事に一つの集団になっていた。私は、子どもは子どもたちの中でこそ育つことが多々あると思う。本日市長にお願いしたいことは、どの子どももみんな地域の中で生きられる環境づくりを続行していただきたいということ。地域で開催されるイベント会場には車いすが用意されているなど、みんなが当たり前に参加できる環境であること、今の宝塚市政にはそれができると思う。人の輪が広がれば更なる展開が待っているのではないか。そのために私もこれから積極的に活動をしていく所存である。

- ノ 【市長】嬉しいお言葉をいただいた。障害のある子、発達課題を抱えた子もいっぱいいる。障害というレッテルを貼っていくのではなく、その子の個性のひとつだと考えて、みんな同じように同じ空間で同じ楽しみや学びがあるのが一番良いことだと考えている。子ども未来部も教育委員会もそういった機会を子どもたちに提供するためにすごく頑張っている。そのおかげで今のような意見がいただけたのだと思う。この体制はしっかりとこれからも継続していきたい。
- ハ 【市民】制服の話に戻るが、制服に対して疑問がある。入学時になぜ制服を買うのか。通学は私服でも何も問題がないように思う。安全面において、私服の方が暑さや寒さに対応でき、機能的だと思う。入学時の制服購入の際に、なぜ制服を購入するのか説明があれば納得して制服を買って着ることができると思う。A中学校では、生徒総会で私服にしてほしいという意見から、間もなく私服の期間を2週間設けて、その後みんなに意見を聞いて制服か私服かを決めていく。制服・私服に限らず体操服等、色々な服を着て学校に通うことができたら良いと思う。
- ヒ 【市長】中学生の頃、本屋に寄り道した時に、補導員がいて制服でどこの学校の子か見分けていると思った。これは私の勝手な見方だが、もしかすると制服の方が大人の管理がしやすいのかもしれない。それであれば、そのような管理はいらないと思う。過去からの慣習のような感じで今制服がある。校則の話の時に、これだけ制服をどうするかという意見が出てくるということは、みんながそこを意識している。これからもっと変わっていくだろうと私は思っている。その過程で、制服がなくなるという選択肢も出てくると思う。子どもの皆さんの思いを実現する方向で変化していくと思う。
- フ 【市民】時間という言葉が何度も出てきたが、すべての改革をするにあたって、先生側の時間が特に大切になってくる。A中学校では先生が1人でなんでもしようとして忙しい。先生方で仕事を分担して、生徒側に使える時間を作ってもらいたい。
- ヘ 【市長】なかなか鋭い視点。先生たちが時間に余裕がないと、生徒と触れ合う時間が少なくなる。部活動だと色々な先生に触れ合えるのだが、日常ではほぼ担任としか話をする機会がなく、それも授業の合間だけとかになっていると思う。それによる弊害というのが、先生たちが、生徒が何を考えているのかわからなくなってしまうこと。時間を作らないといけない。そこで導入されているのがICT化。ツールを使うことで効率化して時間を生み出し、皆さんと触れ合う時間を作る。もうひとつ国が言っているのは、部活

動の地域移行。これには二つ理由があるが、子どもが減ってきて、例えばサッカーをしたいとなった際に人数がいないとできない。そのようなことにならないように、子どもがやりたいことの受け皿を作ることが目的。もうひとつは、顧問から解放された先生がその時間を使って子どもと触れ合う時間を作るということ。この二つを国がやっている。そして宝塚市が独自に実施していることがスクールロイヤー。学校現場の課題、問題を先生たちが解決していく際に法的な視点からサポートする学校現場専門の弁護士。先生たちがこんな課題が出てきた、どうしたら良いのだろうと思い悩む時間を短縮してスクールロイヤーにアドバイスをもらう。アドバイスをもらうだけで解決するのは先生。先生たちに解決方法を経験して学んでもらう。先生たちも経験を重ねることによって同じような問題が起こった時に、迅速にサポートできる力をつける制度を取り入れた。これらを組み合わせて先生に時間を作っていこうと思っている。

- ホ 【学校教育部長】生徒から先生の時間の負担を何とかしてください、と言われたのは初めてで驚いている。子どもたちがそのような意識を持ってくれて、変わってきたなと思う。現場の先生は忙しく、採点や生徒指導の問題、保護者の対応を一生懸命頑張っている。そのため明日の学習の教材研究が後回しになってしまっている。ICT や部活動の地域移行等を活用して、先生の負担軽減に取り組んでいく。
- マ 【市民】校則等の話をするとき、生徒会メンバーと先生がいないと会議が成り立たない。校則等についての意見を入れる意見箱があり、それを見て生徒会で会議して解決していく仕組みがあるが、先生側が忙しく、執行部の予定も合わないということがあり、意見箱の意見を見るだけで解決できなくなっている。先生の時間が作れず生徒の意見が通らないのであれば、生徒だけで会議をして解決法を見つけ、まとめた意見を先生に報告したら良いと思う。生徒だけで話すので、会議の時に先生が絶対必要というわけではない。生徒だけで話し合っても良いと思う。
- ミ 【市長】その通りだと思う。先生たちは箱に入っている意見を見ないということか。それであれば、入った意見を公表してしまおう。「先生、こんな意見きているよ。生徒の間でまとめました。」と伝え、それを公表しよう。そして、先生の意見も公表しよう。それで、どうするか。この意見はずっと上がっているとなったら、先生たちも解決してくれると思う。それで先生たちの時間を作ろう。
- ム 【市民】F 中学校の保護者。うちの子は新入生なので校則は、こんなものか、という認識で半年を過ごしている。卒業生の保護者からは、こんなことが自由になったんだねという話を聞いたり、髪の毛を短くしろと先生から言ってもらったほうがうちの子は髪を切らないからありがたい、と言っている保護者もいたりした。色々な意見を聞くと何が良いのか悩んでしまうところ。先生のことを心配している生徒がいるというのは、私も以前学校に勤めていたことがあったのでありがたいと思う。学校全体で子どものために先生が一丸となって取り組むことができたなら良いと思う。鞆に入れてタブレットを毎日持ち帰らないといけない。置き勉強はできるようになったが、テスト前には鞆に詰

め込んで帰ってくる。これで40分くらい山を登って帰ってくるのかと思うと可哀想だと思ってしまう。なぜ制服を購入するのかということは、大人も疑問に思っているところがあった。A中学校が私服の期間を作るということを、自分たちで考えて取り組んでいくということが素晴らしいと思う。私は児童館で働いていて、目指すところは子どもたちが自主的に考えたことを大人が聞いて、それを実現できる手伝いをするのが一番の理想だと思っている。児童館は様々な子が来館するため、そこまでいかないが、学校は毎日行くところなので自分たちで話し合っ、こうなんだということを大人に伝えやすい場所だと思う。色々やってみてもらえたら、こんなことをやったということを他の中学校に教えてもらえると全体的に変わっていくのではないかな。

メ 【市長】子どもが考えていることを大人が実現していきたい、と私も思っている。宝塚市子ども議会を子ども未来部でやっている。子どもたちが議員になって、本物の議会と同じように議場で提案していく。どんな意見が出ているのかを確認する時に驚くことがある。えっ、こんな視点で見ているのかと思うことがある。大人からその視点は出ない。なぜかという大人はその現場の人ではないから。公園で毎日遊んでいるのは子ども。使っている人としての話をしてくる。遊んでいる子どもを見ている大人の視点はまた違う。大人だけで物事を決めると、子どもが望んでいないことを勝手に子どもが望んでいることだと決めつけてやってしまうということが起こるのだと思う。私も子ども議会に出た意見はできる限り実現したいと思うが、実現できないものもある。子ども議会に出ている子どもたちは宝塚市政をよく勉強して、とても良いことを言ってくれる。私の家庭では中学生になったとき、家族会議の際には自分で意見を言って、時間管理は自分でしなさいと父親に言われた。子どもたちのことを、大人は子どもと思っているが、子どもは個人。そこには当然ながら思うこともあり、悩みも意見も楽しみも色々なことがある。私たちはそれをどのように吸い上げるか。また一方で、子どもは大人たちが守るべき存在である。それをどういう風に見守っていくかをみんなが悩んでいて、おっしゃっていただいた言葉でその辺りが少しクリアになったと思う。

モ 【市民】この会に参加するのは初めて。こんなに対等に話をさせていただいて有難いことはない。今日のテーマは子どもの権利。以前子ども会に携わらせていただいていた。県は、宝塚市からなぜ子ども会がなくなったのかと苦悩されていた。時代は変化する。子どもを取り巻く環境がいかに変化しようとも、ここにいる子どもたちは先生のことまで心配してくれていて、きっと心優しい大人に成長されると思う。宝塚市の政治を司るトップを中心に、10年先、20年先、100年先を見越しての行動範囲、思考力を駆使して、宝塚市に住んで良かったもっと住み続けたいと思えるよう、もっとたくさんの意見を聞いて市政に反映して欲しいと思う。ひとつ残念だと思ったことが、末広中央公園での祭りの時に（市への人形の寄付を）提案された方が、宝塚市に不満を持っている。あるひとつのことで不満を持たれたら、すべてのことで不満だらけになっていく。なぜならば、意見を出された方に対して、駄目だということの説明責任がなされていない。

愛があるかどうか。今後は、少子化になっていく。どうしたらその少子化をくい止めることができるかということだが、すべては愛。ひとりひとりに対して、どれだけの愛をもってその方に納得をしていただけるか。このような事案があり、非常にもったいなかったと思う。苦言かと思うが、愛をもって行政の方に携わっていただきたいと思う。

ヤ 【市長】愛をもって皆様に接するべきという意見をいただいた。末広中央公園で話をさせていただいた件について、(人形を寄付いただいた場合)置き場所としていつでも市民の方に見てもらいたい、市役所に置いてしまうと市役所に来る人にしか見てもらえない、駅前等の施設に置いて市民の方に見ていただきたいという(市の)思いで(置き場所等の)提案をさせていただいたが、意見が合わなかった。改めて担当の方に私から説明をしていこうと思う。

ユ 【市民】今日は来られている学生にエールを送りたい。私は、身体障害者。フルマラソンを4回走って2回完走している。空手部で空手2段である。1才の時に小児麻痺にかかり、右足が3cm短い。太さも左足と比べて7割くらいしかない。短距離走はいつもビリだった。だから運動会が大嫌い。空手部では誰にも言わず、毎日練習していた。今日来られている学生は、本当に素晴らしい素質をお持ちだと思ったので、ぜひ頑張ってもらいたい。

ヨ 【市長】最後に心強いエールをいただいた。為せば成るといものを見せていただいた気がする。子どもたちにも私たちにも力強いエールをいただいたと思う。

3 閉会

(1) 市長挨拶

子どもたちの生の声を聴けたということはありがたい経験となった。これからも色々なご意見を聞かせていただきたいと思う。大人の皆様のバックグラウンドから出てくる視点で、私たちに多くのことを教えてくださりありがとうございます。今日伺った意見を受けて、これから私も教育委員会も子ども未来部も子どもたちのために尽力していこうと思う。子どもの権利サポート委員会の先生方お二人にも来ていただいている。委員会のサポート委員がいてくださるから困ったとき、これから頑張ろうと思うときに、大人のサポートを受けられる。この先生方が宝塚市に「子どもの意見表明」ということを強くお話してくれている。宝塚市は、こどもまんなか応援サポーター宣言をしている。市政を行うにあたって、子どもをまんなかにおいて子どもの利益を考えながら、そして子育て世代をまんなかにおいてまちづくりをしていこうという宣言内容になっている。そこから色々な子どもに関する施策が展開していくという流れになっている。これからは宝塚市を皆さんの目でしっかり見ていただいて、また機会があればご意見をいただきたいと思っている。

(2) 事務連絡(アンケートの協力依頼)

以上